

# NGO「夏休み 子への食料配布」

## 申し込み世帯最多

### アンケート半数が「昼食取れない」

子ども支援専門の国際NGO「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」は6日、困窮する子育て世帯への食料支援「夏休み 子ども食 応援ボックス」の申し込み世帯へのアンケート結果を公表しました。「十分な量の食料を貰うお金がない」と答えた世帯が71%、夏休みなどの長期休暇中に子どもが昼食を「あまりとれていない」「とれていない」と答えた世帯が46%に上りました。



食料を箱詰めするボランティアやスタッフ＝6日、千葉県船橋市

「食の応援ボックス」は、2020年に始めたもので、今回で8回目。申し込み数は6412世帯と過去最多でした。18歳未満の子どもを持つ、住民税非課税世帯などが対象です。申し込み世帯の94%がひとり親世帯です。物価上昇による値上げがあったという世帯は4・7%にとどまりました。コロナ禍前の給与水準に戻っていない世帯は64%でした。

同日、千葉県船橋市の物流センターで、食の応援ボックスの梱包（こんぼう）作業を公開しました。ボランティアを含む約20人が、米や菓子、歯ブラシなどを箱詰めしました。

担当者はアンケート結果について「物価高によって家計への負担が増す一方、値上げもほとんどない」と指摘。「これまでと比べても、いっそう厳しい状況です。夏休みに子どもたちが必要な食料が得られないことが強く危惧される」として、子どもへの貧困対策の拡充などを訴えました。

応援ボックスは、抽選で当選した5000世帯に向け、7月中旬から発送する予定です。